

軟組織における CBCT 利用の診断方法

岡田素平太

略歴

1993 年日本大学松戸歯学部卒業

1993 年日本大学松戸歯学部第二口腔外科入局

1998 年オカダ歯科クリニック開業

2001 年医療法人美樹歯会設立

2013 年日本大学松戸歯学部歯科放射線科教室研究講座員

ペリオドンタルプラスチックサージェリーを行う上で、硬軟組織の診断に対して CBCT の活用は、事前にリスクアセスメントを知ることの有効性として、歯周組織の解剖学的な歯肉の形態に関連した歯槽骨頂部の高さや厚みに着目した形態的分類を行ない、歯槽骨頂が高いか低いか、辺縁の骨形態がフラット型かスキヤロップ型か、厚いか薄いかといった一般的に使われているリスクアセスメントを CBCT で評価することにより、治療の予知性を高められると推測される。これらに加えて、従来の歯周組織のリスクアセスメントは、歯肉溝内に挿入したプローブが歯肉を通して透けてみえるかどうかで歯肉の幅および厚さを決定していた。これら形態的分類は、審美的に良好な結果を獲得するための臨床的ガイドラインとして、診断時に応用されている。しかしながら、これらの評価では歯根を被覆している部分の解剖は考慮されておらず、外科的侵襲による根面露出や歯肉退縮などの医原性の偶発症を誘発してしまうかもしれない。しかし今回の CBCT の活用により事前にリスクアセスメントを知るとは、前歯部修復処置およびインプラント治療に関して有益で重要な要因になり得ると示唆しここに報告する。